長島の『夏』満喫

7月下旬、小中学校が夏休みに入るとともに、長島の「夏」が到来。各イベントが催され、子どもたちをはじめ、町民、観光客が長島の「夏」を満喫しました。

科学の楽しさを味わう
～わくわくどきどき科学教室in長島～

「見て・触って・作る」科学の楽しさを伝える「わくわくどきどき科学教室in長島」が7月29日は町開発総合センターで、30日は町文化ホールで2日間にわたり開催されました。

今回の教室では、17の実験コーナーを準備。町内小中学校をはじめ、出水高等学校、鶴翔高等学校、鹿児島大学教育学部の生徒や先生が、工夫を凝らしたさまざまな実験を通して、訪れた子どもたちに科学の面白さを伝えていました。

↑鷹巣中学校のロボコンチームも出展

今年の1月に本町と包括的連携協定を結んだ国立大学法人長岡技術科学大学（新潟県）と独立行政法人国立高等専門学校機構鹿児島工業高等専門学校（霧島市）も、専門的な知識を生かした9つの実験コーナーを設けていました。

空気とヘリウムガスの重さの違いを利用した風船の実験では、ヘリウムガスを入れた風船に人がつかまると、軽々と宙に浮き上がりました。多くの子どもたちは、科学の面白さを体感していました。

今回の科学教室に講師として参加した長岡技術科学大学の山口隆司教授は「同大学ではこれまでも出前授業などは行っていた。今回の連携協定を期に長島町の子どもたちに科学の楽しさを伝えていけたら」と話していました。

今回の教室に参加した宮内優希さん（川床小2年）は「風車作りが楽しかった。風船で浮いたのはちょっと怖かったけど、たくさんの実験ができて楽しかった」と笑顔で答えました。

↑ LEDキーホルダーを作る参加者

協力することの大切さ学ぶ
～ふるさと学び舎in長島～

長島町子ども会育成連絡協議会と長島町教育委員会が主催する「長島ふるさと学び舎in長島」が7月27日から1泊2日で開催されました。

体験活動では「ダンボールハウス製作」や「磯遊び」「星空観察会」「カヌー体験」など2日間にわたりさまざまな活動をしました。長島に住んでいながら磯遊びの経験があまりなかった子どもたちも、自分たちの食材を得るために貝や小魚など、たくさんの食材を確保しようと頑張り、夏の暑さにも負けず全員が元気いっぱいに活動していました。

活動を終えた子どもたちは「町内にたくさんの友達ができてよかった」「自分たちで食材を獲って作った夕食がおいしかったのでまた家でも作りたい」など満足した様子でした。

参加した子どもたちは、ジュニア・リーダーとして地域の活動でこの体験を生かしいくことでしょう。

↑みんなで食べるご飯は格別

↑磯遊びで今日の食材探し

アツイ夏がスタート　～夏祭り納涼大会～

↑歌とダンスで会場を盛り上げるドリームマザーズ

7月29日、夏祭り納涼大会を皮切りに、「2017長島サマーフェスティバル」があづま海水浴場で幕を開けました。

この納涼大会には、夏の夜を楽しもうと1,000人を超える人が来場。特設ステージでは、町内のグループによるフラダンス、獅子島七郎太鼓の演奏や芸能ショーなどが行われ、観覧席からは大きな拍手が送られていました。

祭り終盤には、お楽しみ抽選会が会場を盛り上げ、番号が呼ばれるたびに歓声が響いていました。最後は次々と打ち上げられる大輪の花火が夜空を彩っていました。

大物を狙って　～ブリのつかみ取り大会～

7月30日、あづま海水浴場でブリのつかみ取り大会が開催されました。

毎年、200人の定員にも関わらず多数の予約が殺到するこの催し。今年も県内外から多くの人たちが参加し、にぎわいを見せました。

子どもの部では、夏休みに入り思い出に残る一日にしようと、子どもたちが合図と同時に大物のブリをつかもうと海へ駆け出しました。素早く動くブリに悪戦苦闘しながらもやっとの思いで捕まえると、最高の笑顔でブリを胸に抱え込んでいました。大きいものでは5㌔を超えるブリに参加者らは笑みをこぼしていました。

↑ブリをつかみ満面の笑みで戻る参加者

暑さ吹き飛ばすプレー
～あづま CUP2017 ビーチバレー大会～

7月30日、ブリのつかみ取り会場の隣の砂浜ではビーチバレー大会が開催され、88チームが出場しました。

町内はもとより、遠くは福岡県からの参加もあり、多くのバレーボール愛好家らが砂の上で熱戦を繰り広げました。

この日は、好天に恵まれ強い日差しが照りつけました。火傷しそうなほど熱くなった砂の上で、選手らは暑さを吹き飛ばすはつらつとしたプレーを見せ、会場を沸かせていました。

8つのコートで予選を勝ち抜き、見事優勝の栄冠を飾ったのは、福岡県大野城市から参加したチーム「りんりんりん」。選手たちは応援してくれた仲間と一緒に喜びを分かち合っていました。

↑足場の悪い砂場でもハイレベルなゲームを展開